試運転・点検

試運転のしかた

入 を押し ➡ 乾燥(分) コース を同時に3秒以上押す（ブザーが鳴り ピピッ 「乾燥のみ」コース以外のコースのランプと「洗い」ランプが点灯する）➡ スタート 一時停止 を押す

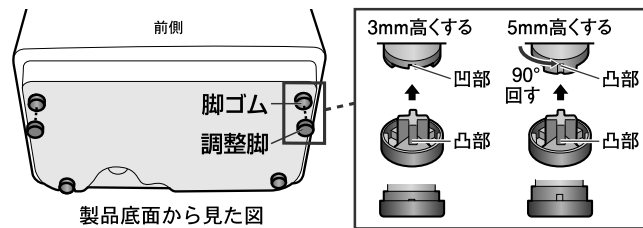
水平に設置できているか点検

洗いランプが点滅し、給水開始 ➡ 給水終了後、■ 乾燥のみ ランプが点灯 10秒以内に電源を切る 切 を押す

ドアを開け、水位が線Ⓐの上端と線Ⓑの上端の間にあることを確認する

洗浄水がⒶより低い（前上がり設置になっている）	**給水量が減り、噴射が不十分になる**
洗浄水がⒷより高い（前下がり設置になっている）	**給水量が増える**

傾きがある場合、調整脚(付属)を取り付けて高さを調整する

※調整脚は、取り付け方向で2段階の高さに調整できます。傾きや、がたつきの程度に合わせて調整してください。

水位確認後は、庫内の水を必ず排水する

【排水方法】電源を入れ、「乾燥のみ」コースを選び、スタート → 排水後、電源を切る。

水漏れ・異常音・排水異常がないか点検

上記「試運転のしかた」に従って再度試運転する

- 異常の場合はブザーと操作部で異常報知（取扱説明書ご参照）
- 異常がなければ約4分後に自動終了

チェックしてお客様にお渡しください

- 本体は水平に設置され、ぐらつき、傾きはありませんか？
- 給水ホースの緩み、ぐらつき、傾きはありませんか？
- 給水ホースと本体接続部から水漏れはありませんか？
- 分岐水栓から水漏れはありませんか？

排水ホースについて

- 緩み、ぐらつき、傾きはありませんか？
- 折れ曲がったり、巻き付いていませんか？
- 20cm以上持ち上げられていませんか？

パナソニック株式会社　ランドリー・クリーナービジネスユニット
〒525-8555　滋賀県草津市野路東2丁目3番1-2号
電話　077-563-2155（大代表）
© Panasonic Corporation 2011
P9902-01H00
S0811-0
（NP-TR、NP-TMタイプ）

Panasonic®

据付説明書

食器洗い乾燥機（家庭用）

据え付けをされる方へ

据え付け後は必ず試運転を行い、チェックをしてお客様にお渡しください。

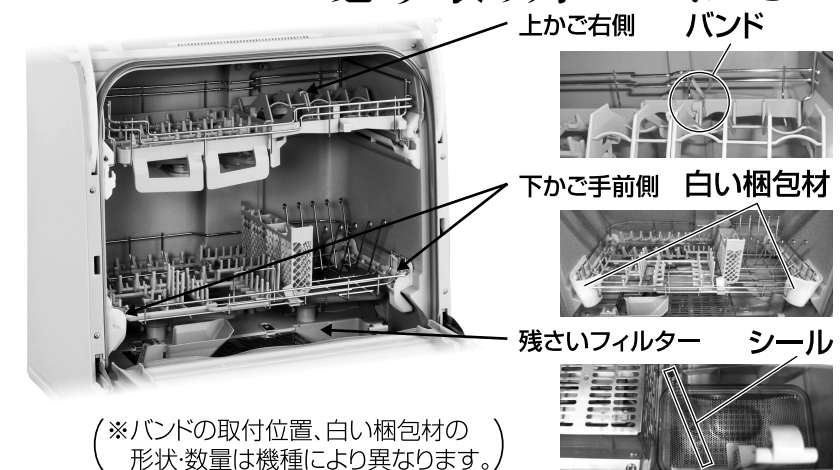
- この据え付け方通りに設置・試運転・点検をしないと、事故・損害を生じても当社は一切責任を負えません。

お客様へ

- 転居などで再据え付けをする場合がありますので、この説明書は据え付け後も「取扱説明書」とともに保管してください。

初めて使うとき

異常ではありません

- 開梱時、水滴が残っている場合があります。（出荷時の注水検査によるものです）
- 庫内に白く濁った水が残っていたり、最初の運転で洗浄水が泡立つことがあります。（庫内に乾燥仕上げ剤を塗布しているため）

付属品は捨てないでください。（取扱説明書ご参照）

必ず取り外してください

上かご右側　バンド
下かご手前側　白い梱包材
残さいフィルター　シール

（※バンドの取付位置、白い梱包材の形状・数量は機種により異なります。）

まずご確認を　ご自宅の水栓の形に合わせて分岐水栓をお買い求めください

例

- 分岐水栓の選び方 http://panasonic.jp/bunki/
- 給水管から分岐させる、給水コンセントも便利です。
- 詳しくは水栓メーカーまたは販売店にお問い合わせください。

水道水圧の確認

- 給水圧力は0.03MPa～1MPaの範囲でご使用ください。台所の水栓等の操作時に水道配管の異常音（ウォーターハンマー現象）が発生する場合は所定の減圧弁を必ず取り付けてください。
- 給水流量は、水栓全開時で毎分8L以上必要です。
- 給水圧力・給水流量の確認は水道工事事業者またはお買い上げの販売店にご相談ください。
- 水圧が低い場合は、運転時間が長くかかることがあります。

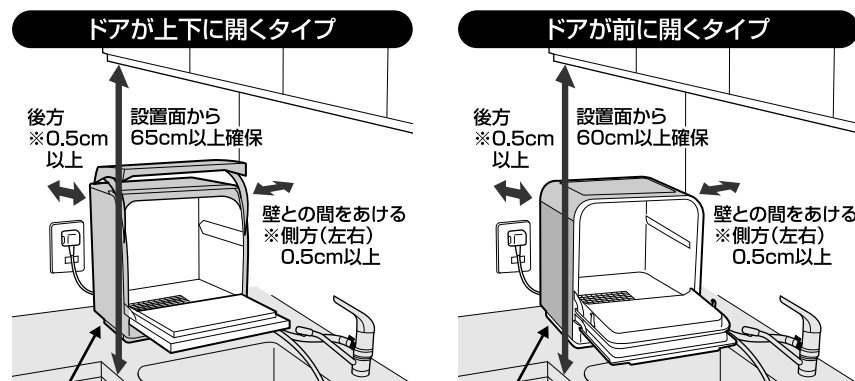
給湯機に接続する場合の確認

- 給湯の場合は10号以上の先止め式給湯機に接続してください。元止め式の湯沸器には、号数に関係なく絶対に接続しないでください。
- 給湯機をご使用の場合は、給湯温度を60℃以下に設定してください。
  →「低温ソフト」コースの場合は必ず給湯温度を45℃以下に設定してください。
- 温度設定ができない高温給湯タイプの給湯機（60℃以上）の場合は接続できません。給水接続にしてください。
- 新たに給湯機に接続される場合は水道工事事業者・お買い上げの販売店にご相談ください。（特に高水圧地域では、給湯機に所定の減圧弁を必ず取り付けてください）

写真・イラストは説明イメージのため、実際とは多少異なります。

設置場所の確認

しっかりとした、水平な面に設置してください。

●周囲の空間をできるだけあけて設置する
（本体から蒸気が出て結露する原因）

段差があるときは専用ステンレス置き台（別売・例:N-SP3）が便利

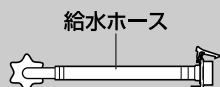
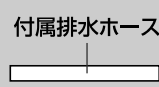
⚠警告

ガスコンロなどの熱源から15cm以内は近づけない（火災のおそれ）

次のような場所には設置しない
・直射日光の当たる場所
・冬期凍結（室温0℃以下）のおそれがある場所（故障・変形などの原因）
・平らでなく、しっかりとしていない場所（水漏れや誤動作の原因）
・ドアの真横にコンセントがきている（感電やショートの原因）

消防法 基準適合 組込形	可燃物からの離隔距離(cm)			
ドアが上下に開くタイプ	上方:8.0	側方:0.5	後方:0.5	下方:0
ドアが前に開くタイプ	上方:0.5	側方:0.5	後方:0.5	下方:0

本機及びキッチンの金属部分が、家屋の壁中のラスや金属板に、電気的に接触しないようにしてください。法令により義務づけられています。法令:電気設備の技術基準第167条（平成13年）

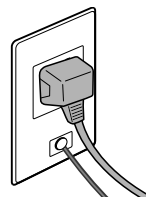
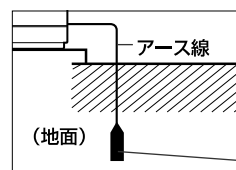
給水・排水ホースの長さが足りないとき

別売の給水ホースを接続する
- 2m : ANP1251-7235
- 4m : ANP1251-7245

別売の排水ホースを延長する
●延長後の全長は2.5m以内で（排水不良の原因）
- 1m : ANP2D-10
- 1.4m : ANP2D-14

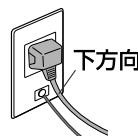
電源・アースの接続

（アースは確実に取り付ける）

■ 電源コンセントにアース端子がある場合
●接地抵抗値（100Ω以下）を確認してください。

⚠警告

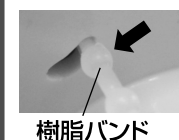
電源プラグは、コードが下方向に出るように差し込む
（上方向に出すと、プラグの接続が不安定になり、異常発熱による発火のおそれ）

■ 電源コンセントにアース端子がない場合
●電気設備技術基準に基づき、必ず電気工事士によるD種接地工事を行ってください。

漏電遮断器の設置について
このほかに必ず漏電遮断器の設置が必要です。使用する電源回路に漏電遮断器がない場合は、必ず取り付けてください。（法令で規定）（主幹に漏電遮断器が設けてある場合は必要ありません）

接地棒（別売）※できるだけ湿気の多い場所を選ぶ

漏電遮断器 【屋内専用漏電ブレーカー】
別売・例
品番（パナソニック電工）WH2402PK
定格電流・電圧:15A AC100V
定格感度電流:15mA

●たこ足配線は絶対にしない。
●**ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路および漏電遮断器を入れた他の製品のアース回路には、接続しないでください。（法令で禁止）**
●設置場所の変更やご転居の際には、必ず再度アースの取り付けを行ってください。
●アース工事は販売店または電気工事店に依頼してください。（工事費は、本製品の価格には含まれていません）

電源コードの外し方
樹脂バンドの上部を押す。

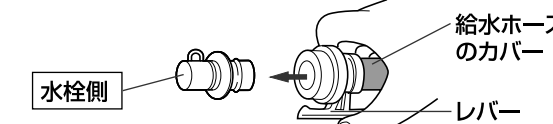
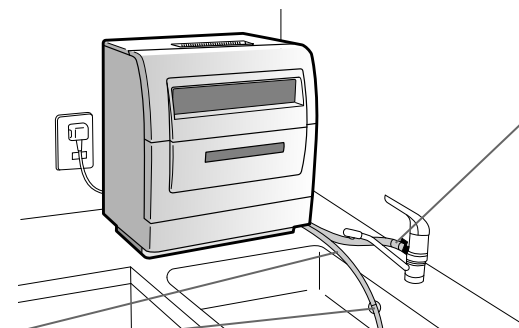
据え付け方

⚠注意
ナットはしっかり締めつける（水漏れの原因）

❶ 分岐水栓を取り付ける

❷ 給水・排水ホースを本体につなぐ 本体背面・下部

給水ホースのつなぎ方
①給水ホースの向きを決め、本体接続部に給水ホースを合わせる
②ナットを本体接続部にまっすぐ押し当て、確実に締め付ける
（締め付け後に給水ホースの向きを変えた場合は、再度締め付けの確認をする）
③給水ホースを保持部に挿入して固定する

排水ホースのつなぎ方
排水ホースの向きを決め、排水ホース接続部に奥まで差し込み、接続部をホースバンドで固定する。

❸ 給水ホースを水栓につなぐ

①給水ホースのカバーとレバーを押し下げたまま水栓側に「パチン」と音がするまで差し込む
②引いて、抜けないことを確認する
③水栓のコックを開いて水漏れがないことを確認する

お願い 給水ホースは、必ず付属の新品を取り付けてください。（古いものは使用しない）

❹ 排水ホースは吸盤で固定する

排水ホース → 長過ぎるときは切ってください。
切断面から飛び出た芯線（透明）は、きれいに仕上げる
吸盤 → 排水ホースを固定する

給水ホースが水栓側に接続できないとき 分岐水栓の接続部に白い樹脂部品がついている場合

水圧がかかっている場合、接続できません。右図の手順で水圧を抜いてください。

※手順②のとき、分岐コック内部に残っている水が少量出ます。給湯接続の場合、熱湯が出ることがありますので、ご注意ください。

①分岐コックのレバーを「とじる」にする
②白い樹脂部品を下に動かす
③給水ホースを分岐コックに取り付けた後、レバーを「ひらく」にする

冬季ご使用にならない場合（寒冷地の別荘など）

万一、凍結してそのまま放置されると、給水弁や配管等の破損のおそれがあります。水抜き作業が必ず必要なため、お買い求めの販売店、または、お近くの水道工事事業者にご相談ください。

販売店様へ（水抜きの方法）
●作業は運転終了後、30分以上たってから行う。
●給水ホースを本体から取り外してホース内の水を抜く。
●背面にあるゴムキャップ（黒色）を外し、製品を前後左右にゆすり、中に残っている水を全部抜いた後、ゴムキャップを元に戻す。